

破巻学園在り

RAKUNO GAKUEN



Green Stage

デントコーンの種まき実習

Vol. 98
2003.7.15

聖句

「あなたたちの神、主は…寄留者を愛して食物と衣服を与えられる。あなたたちは寄留者を愛しなさい。あなたたちもエジプトの国で寄留者であった」
(寄留者とは現代で言えば難民である。古代イスラエルの民は、かつて自らも難民であった記憶を神によって呼び覚まされ、それゆえに他国の難民にたいして手厚く配慮すべき戒めを大切にした。)

申命記10章17～19節

学長のあいさつ



大学のさらなる発展に向けて

— 気持ちを新たに
課題に取り組む —酪農学園大学 学長
大谷 俊昭

日頃皆様には本学の研究・教育の充実について、深いご理解と強いご支援をいただいておりますことを心より感謝申し上げます。本学は難しい時期を迎えておりますが、学長任期の後半に入るに当たって、気持ちを新たに課題に取り組む決意をいたしております。本年も今までと変わらぬご支援をお願いいたします。

● 学生確保対策の強化を

ここ数年、少子化による学生確保の困難性、国の私大経常費一般補助の抑制政策、国立大学における諸改革の実施などに起因する私立大学の環境悪化は著しいものがあります。そういう状況に逆行するように、全国の四年制大学の総定員は増加しております。これは主として短大の再編によるものです。その結果として、学生確保の困難性は一層深刻化し、道内においても私大協加盟校の約半数が定員割れを起こしています。本学は定員割れを回避しているものの、文科系学科の入学志願者数は著

しく減少しております。本学としては将来を見据えた体質強化と平行して、既に遭遇している学生確保難を打開する具体的方策に力点を置くという2002年度の方針を継続強化して参ります。

● 研究・教育の発展に向けて

建学の精神を具体化する研究・教育の発展は、本学を他大学に対して際立たせ、長期的存続の根拠と成すものです。そういう姿勢で、昨年から継続しているBSEを中心とした家畜感染病対策を課題とする共同研究は、その成果の一つとして「消費者の食の信頼回復を目指して」というテキストを完成しました。本年はこれを持参して酪農地帯における講演会を開く予定です。もちろんこれは、本学における研究の一部の結晶ではありますが、全学的な研究蓄積の上にこのような取り組みが可能になっているという意味で対社会的に大学を代表するものです。

● 新家畜病院建設へ

本年度中に完成する新家畜病

院（仮称）は、全体としてわが国最大規模であるばかりでなく、産業動物についての医療・研究・教育施設としても最大規模の病院になります。加えて、この病院には野生動物管理棟が含まれ、環境問題を視野に入れた研究・教育を可能にする施設として設計されています。

● 制度の見直しと高大連携

学生確保の直接対策として、学生・受験生に対する経済的支援に力を入れております。

本年度から大学・短大奨学金を従来の3パーセントから無利子に変更しました。また、北海道銀行と低利提携教育ローンの制度を発足いたしました。

高校との連携にも力を入れ、「出張セミナー」という名で本学の教員が高校に出向き講義をすることや、本学の教員と高校の教員による共同研究を始めております。更に、昨年度完成した研修館では、高校教員・高校生の皆さんの見学受け入れ態勢を整えておりますので、見学などのご要望があればご連絡願います。

キャンパスレポート



2003年度入学式 1,083名を迎えて 新たなスタート

酪農学園大学・大学院および酪農学園大学短期大学部の2003年度入学式が4月7日、本学の体育館において行われ、多くの父母や教職員が見守る中、合計1,083名の新入生がそれぞれ希望に胸を膨らませ、新たな第一歩を踏み出しました。

この日は春らしい陽気に恵まれて、朝早くから式場に詰め掛けた新入生やその父母の表情には、晴れ晴れしさどこか落ち着かない様子が見られました。午前10時に始まった式は、高橋一宗教主任の司式による礼拝形式で行われ、式辞に立った大谷俊昭大学学長は、まず建学の精神についてふれ、本学を選んだことに誇りと自信を持つよう促し「本学は濃密な学生指導体制をとっているが、諸君からの発信がなければ有効な指導はできない。また、大学は社会へ出る前の準備期間だけでなく自らの可能性を試す期間として積極的に学生生活を送ってほしい」と本学の学生としてのあり方を力強く語りました。

一方、安宅一夫短期大学部学長は「日本酪農の一層の発展のため勉強し、また、三愛精神を体得するとともに専門学問を学

び、あなたでなくてはできないことを発見してほしい。2年間という短い期間だが、21世紀を創るパイオニアとなる努力をしてほしい」と述べ、志を高く持つよう呼びかけました。

讃美歌を挟んであいさつに立った平尾和義理事長は「大学には大学でしかできない貴重なものが多くあり、それを求める者には必ず与えられることにおいて、本学は皆さんの期待を決して裏切ることにはないと信じている。健康に留意し、本学の学生としての誇りと自信を持って、学生生活が実り多いものになることを期待する」と述べました。

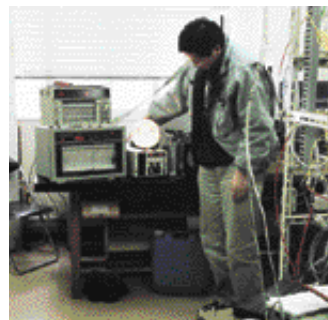
式を終え、新入生を迎えた大勢の先輩たちの列に混ざって、子牛やヤギたちも一緒に新しい仲間を歓迎していました。

固体高分子型燃料電池によるバイオガス発電に成功

酪農学園大学は独立行政法人産業技術総合研究所、鈴木商工株式会社、住友金属鉱山株式会社、有限会社バイオテックと共同で、固体高分子型燃料電池によるバイオガス発電に成功し、3月31日、本学の乳牛糞尿循環研究センターにおいて報道関係者へのデモンストレーションと説明会を行いました。

この研究は農林水産省の「民間集結型アグリビジネス創出技術開発事業」の補助を得て3年前から実施されました。発電の仕組みは、バイオガスから硫化水素を除去し、水素ガスをつくり、燃料電池自動車にも使用される固体高分子型燃料電池に取り込んで酸素と反応させます。これにより50ワットの電力で7時間以上の連続発電に成功。バイオガスによる発電は「リン酸型」では例があったけれども「固体高分子型」では国内初で、システムの有効性と信頼性を実証しました。

酪農学科家畜栄養学の岡本全弘教授は「産・官・学の共同は必要不可欠でそのおかげでここまでたどり着くことができた。レストランや家庭の生ゴミでも活用でき、将来性は十分にある。これからの社会がコージェネレーション化していく一つのきっかけになったのではないかと話していました。



堂地修助教授ら グループが畜産 大賞を受賞

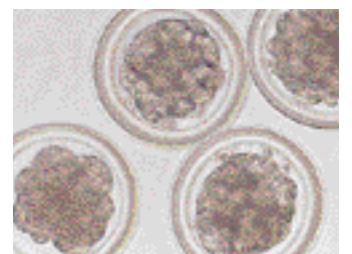
私たちの家畜改良センター胚移植研究グループは、「エチレングリコールを使用した牛凍結受精卵の直接移植技術の開発研究とその普及による受精卵移植の利用拡大」の研究テーマで平成14年度の畜産大賞を受賞するこ

とができました。私たちの研究概要は以下のとおりです。

私たちは、受精卵移植技術を広く普及・定着させるため、移植が簡易な受精卵の凍結保存法の開発に取り組みました。従来、牛受精卵の凍結保存にはグリセロールが凍結保護物質として用いられていました。その凍結受精卵の移植をするためには、実験室において融解後、受精卵をストローから取り出しグリセロールを顕微鏡下で希釈・除去するという煩雑な作業を必要としました。そこで、私たちは1990年、グリセロールの代わりにエチレングリコールを用い、凍結・融解した受精卵を受胎牛に直接移植して受胎させることに成功し、翌年世界に先駆けて学会発表しました。

私たちの研究は、牛受精卵の凍結保護物質としてほとんど利用されていなかったエチレングリコールに着目し、受精卵を凍結・融解後、農家の庭先で受胎牛に直接移植しても良好な受胎率の得られる方法を開発・実証した点に大きな特徴があります。また、私たちの研究グループの指導・普及活動により、今日、エチレングリコールを用いた凍結卵の直接移植法は広く普及し、生産現場における受精卵移植技術の利用拡大に貢献できたと考えています。今後も生産現場で役立つ技術の開発に微力ながら努力したいと考えています。

(酪農学科家畜繁殖学助教授 堂地 修)



発情後7日目に回収された胚凍結可能な高品質胚

学園トピックス



大学・大学院 短期大学部

ゆとりのある学習環境を 中央講義棟完成



昨年5月から建設されていた中央講義棟がこのほど完成し、4月9日に落成式が執り行われました。

讚美歌、聖書朗読、祈祷の後大谷俊昭大学学長があいさつし「わが国の教育施設に対する思想は貧弱であり、学生が一日で一番時間を費やす場を見直すことが必

要である。ゆとりある学習環境を作るという点で、理想に近いものが出来た。今後はここをどう使用していくかが私たちの課題である」と述べました。

その後教室設備の説明が行われ、参加した教職員らは興味深く教室内を見て回りました。

講義棟の概要は次のとおりです。

- ・鉄骨鉄筋コンクリート造
- ・地上3階建て
- ・延床面積2540.78㎡
- ・大教室(288席)3つ
- ・小教室(84席)2つ

大教室の3人掛けの各机には液晶モニタを設置し、エレベータや身障者用トイレ、教室内の車椅子用スペースも確保しています。



酪農学研究科に食品栄養科学専攻博士・修士課程開設

今年度より新しく食品栄養科学専攻博士課程・修士課程を開設し、博士課程に2人、修士課程に4人が入学し、順調なスタートを切りました。

これは、人の生活と健康に関連する食品の栄養性・嗜好性・機能性を、素材の開発から加工・製造そして生態への影響まで基礎的、応用的な面からアプローチする領域を教育研究対象としたもので、高い目的意識と強い使命感を持ったこの分野における指導的役割を担える人材の養成を目指します。

酪農学研究科長の塩見徳夫教授は「現代の日本は過剰栄養と栄養アンバランスの傾向にあり、生活習慣病が急激に増加している。その予防のために食品やそ

の成分の採り方、新しい機能性食品素材開発、そして健康維持などについて最先端の研究・教育を必要とし、本専攻がスタートしました。今後はさらに充実させ枠を広げて発展させていきたい」と話していました。

獣医師国家試験 本学の新卒者合格率は 87.7%

2002年度(第54回)獣医師国家試験の結果が3月中旬に発表されました。今回は、全国的に前年を下回る結果となりました。詳細は次のとおりです。

2002年度獣医師国家試験合格状況

		受験者数	合格者数	合格率
本学	新卒者	130	114	87.7%
	既卒者	12	1	8.3%
	計	142	115	81.0%
全国	新卒者	1,051	927	88.2%
	既卒者	159	37	23.3%
	計	1,210	964	79.7%



とわの森 三愛高等学校

2003年度 堅実に スタートする

今年度から新しく私学間複数受験も実施され、また中卒者の減少という新しい動向の中、とわの森三愛高等学校は昨年を上回る1434名の応募がありました。入学式が4月8日、365名の新入生を迎えて行われ、村山昭二校長の式辞、平尾和義理事長、島田泰美PTA会長によるお祝いの言葉、新入生代表六田陽子さんの誓いの言葉に参列した多くの保護者も感激を新たにしておりました。その後、機農寮・シオン寮の

合同入寮式が行われ、新しく計55名が寮生となりました。全校生徒は1105名(男子551名、女子554名)となり、ほぼ男女同数となりました。酪農経営科にも女子が8名入学し、酪農経営科全体では、女子は合計20名となりました。

2003年度は、2学期制、新教育課程の実施、総合的学習の時間の導入などの課題がありますが、順調にスタートしました。また、新しく7名の新入教員が採用され、職員室も若々しい雰囲気満ちています。



「MACオープンに
参加して」

3年5組 佐藤博美

私は9月に行われた市民大会で優勝し、ポートランドで行われる「MACオープン」に出場することができました。私にとって初めての海外試合で時差や慣れない景色に戸惑う中、ホームステイの方々には笑顔で優しく迎えてくれ、私たちを安心させてくれました。しかし、器具なども日本とは違い、練習はほぼ器具慣らしで終わってしまい、試合前の練習とは言えませんでした。そんな不安を抱えながら、徐々に日は過ぎ、試合を迎えました。1日目は団体の1人として出場し、小さいミスはありましたが、大きなミスはなく、レベル9で団体4位、個人総合3位、平均台4位でファイナルに出場することができました。そして、2日目のファイナルでは平均台に出場



し、何度かグラつきはありましたが落下はなく、4位に入賞することができました。

初めての海外での試合はとても大変で、自分の弱い所に気づくことができました。この貴重な経験を忘れずに、今後の練習や試合に役立てていこうと思っています。そして今まで以上の成績を夢ではなく、現実にできるように努力していきたいと思います。

「英語科研修旅行を 終えて」

3年10組 齊藤航太

僕たち28人は、3月5日から約2週間、アメリカに行っ

幸長 小百合 さん

岐阜県出身
岐阜農林高等学校出身
農業経済学科入学



高校で動物科学科に所属しており、ずっと牛とふれあう授業が多かったんです。大学でも動物と接していけたらと思い、学科長にこの大学を薦めていただいて進学を決めました。それでも酪農学科ではなく農業経済学科を選んだのは、酪農に限らずもっと広範囲で「農業」というものにふれてみたかったからです。この大学に初めて来たのは入学式当日で、敷地の広さにただ驚きました。

大学に入って楽しみなことは学祭などの行事やサークルです。私は旅行サークルに入りました。2年目の夏休みにある農業実習

も、実際の農業というのを知るチャンスなので楽しみです。そして、できるだけ多くの資格を取得し、友だちをたくさん作ろうと思っています。高校との違いは「自由」なことです。でも、授業の選択などすべて自分で決めなくてはならないので不安にも思います。

卒業する4年後には、自分の私生活や仕事などに自分で責任のとれる人でありたいです。そのために、今後4年間の一日一日を大切にしようと思います。

将来は、やはり農業に携わる仕事に就きたいですね。農業という道を進むことにはまったく不安はありません。具体的にはまだはっきりしていませんが、これからの大学生活の中でゆっくり見出していこうと思います。

ソミア さん

内モンゴル出身
在日4年
経営環境学科入学



日本への留学は祖父に勧められました。戦後の日本の発展を自分の目で見るようにと言われたんです。また、自分自身が自立するためでもあり、親が会社を経営しているので経済・経営の勉強をするためでもありました。姉もこの大学にいるので何度か来た事があるんですが、その時「すてきだな」と思い入学しました。

友だちも多くでき、これからの大学生活が楽しみです。せっかく日本に来ているのだからもっと交流の場を持ち、みんなに中国のことを知ってほしいですね。外国人同士がふれあうチャンスなのだから、日本だけに収まらず

世界に目を向けてほしいと思います。私自身ももっと日本を知りたいと思っています。

卒業後も日本に残り、さらに勉強を重ねていきたいですし、英語圏の国へ行って英語を話せるようになりたいです。中国へ戻ったら親の会社を継ぎ、それをさらに大きくすることが夢ですね。北海道は私にとって故郷と同じくらい大切だし愛着もあります。ですから、中国と北海道の貿易に挑戦したいと思います。そのために4年間の勉強に力を入れたいです。

この大学は環境もいいし、先生も友だちも私たち留学生に対してとても親身になってくれるので、入学して良かったと心から感じています。これからの4年間で人に頼らず、自分の力で頑張れるように成長していきたいと思っています。

ました。はじめの10日間はホームステイでした。最初のうちは緊張と急激な生活環境の変化で、ひどく疲れてしまいました。次第に慣れてくると家族たちとも話せるようになりました。僕たちの英語は決して上手ではありませんでしたが、単語を羅列しただけの文とも言えない文でも、必死に理解しようと努めてくれてとてもうれしかったです。ホームステイ最後の夜、さよならパーティーが開かれました。たくさんのごちそうがあり、ゲームがあり、歌があり、とても盛り上がりました。アメリカ人の友達もたくさんできて、

いよいよこれからというところでホームステイ終了。次の目的地ロサンゼルスは、雨が降っていたり、飛行機が遅れ

たことで、市内観光が一部カットされてしまったのが残念でした。次の日はクリスタルキャセドラルという全面ガラス張りのすごく大きな教会に行きました。とてつもなく大きいパイプオルガンでの演奏は迫力がありました。午後から行ったカリフォルニア・アドベンチャー、次の日に行ったディズニー・ランドは天気も良好で楽しかったです。その後もいろいろな観光地をまわって、昼も夜もやたらはしゃいでいました。しかし、サンフランシスコでのデモ行進を見た時は、さすがに戦争を意識せざるを得ませんでした。そして次の日、戦争が開始されたというニュースを見て正直不安になりました。戦争のことは残念でしたが、楽しかったし、少しは英語が上達したと思います。生まれ変わっても同じ時間を過ごしたいと心から思いました。



るを得ませんでした。そして次の日、戦争が開始されたというニュースを見て正直不安になりました。戦争のことは残念でしたが、楽しかったし、少しは英語が上達したと思います。生まれ変わっても同じ時間を過ごしたいと心から思いました。

男女共学から3年目の酪農経営科

2001年4月より酪農経営科は男女共学としてスタートし、3年目を迎えているが、順調な成果を積み重ねている。

女子生徒の入学者は、2001年度は6名、2002年度は7名、2003年度は8名を数え、男女の入学者も36名、33名、39名と一定数を確保している。酪農経営科は全寮制教育を伝統にしているが、男子寮の機農寮、女子寮のシオン

寮の改修・増築による整備計画も順調に進み、快適な寮生活が行われている。また、本校舎に実験実習室が整備され、隣接地に実験実習場が移り、農業機械実習室や機械庫、ハウス等も整備されている。

教育面についても、学年ごとの酪農家での酪農実習が体系化され、酪農学園大学の先生による出張授業や実習も行われている。生徒の意欲も高まり、農業クラブにおいては、全道大会、全国大会に常連校として参加している。特に、入学生徒の中に卒業生の子弟が多く自営者を志す生徒の割合も高くなっている。内容豊かな「実学」を基本とする本校教育が、益々期待されていくものと確信している。

校長 村山 昭二

活躍する同窓生 Vol.6

獣医は大変だけど 臨床現場はドラマチック!

石山通りメディカルセンター
石山通り動物病院 院長

齊藤 聡 さん

獣医学科第18期生
1985(昭和60)年学部卒業

◆なぜ、獣医師を選んだのでしょうか?

動物が好き、夢がある職業だからなのですが、学生時代は、電子顕微鏡をのぞきこむばかりの仕事で臨床系の獣医ではなかったんです。

卒業後、知人に犬を診てほしいと頼まれたのですが、臨床経験がなかったので大学の先生に診てもらい、その犬は元気になりました。その時「生き物を助けることができるのが獣医なんだ」と感じ、そこから臨床へ進んだんです。

今、獣医学部へのハードルは高くなり、努力が必要です。だから、「なんとなく獣医になるのではなく絶対獣医になる」にはかえて良いと思います。でも、獣医になりたかったけれど、なれなかった人もいます。その人たちのためにも、獣医に誇りをもって、これからもしっかりと勉強していきたいですね。



◆NPO法人野生動物救護獣医師協会の専門ボランティアとして、昨年スペイン沖の重油に汚染された海鳥救護活動に参加されていますが、参加を決意したきっかけと、実際活動して感じたことをお聞かせください。

病院には、飼主が動物を連れてやってきます。最初は、飼主や病気の動物のことでいっぱいだったのですが、飼主が連れて来ることができない野生動物や、ノラ猫もいるんです。

私自身、ボランティア活動の内容をお話するのは苦手なのですが、世界では毎年のように油流出事故が多く起きています。日本では、ナホトカ号の事故で初めて知られるようになりました。昨年の活動へは、環境省の水鳥救護センターの獣医師から話があってから3日後に出発、時間が勝負の仕事です。

【プロフィール】

石山通り動物病院 院長
齊藤 聡 さん
昭和37年4月7日生まれ、北海道札幌市出身。現在5匹の犬と猫、計10匹と暮らす。札幌西高校を卒業後、酪農学園大学獣医学科に入学し、放射線教室で牛の染色体を研究。大学院を卒業した昭和62年に渡米し、ペンシルベニア大学、タフツ大学等で小動物や野生動物の研修を受け、平成元年、帰国と同時に開業。は虫類などのエキゾチック動物も手掛ける。また、平成9年のナホトカ号や平成14年のスペイン沖での重油流出事故の際に野生動物救護活動を行ってきた。趣味は、夜の海辺へ愛犬とドライブすること。昨年は愛犬と利尻島一周54キロマラソンに出場し、見事完走した。41歳。



◆珍しい動物の治療体験を教えてください。

多くの天然記念物の治療を行っています。先日、水族館で飼育されている国の天然記念物のオオサンショウウオが、誤って給餌用の棒を飲み込んで運ばれてきました。神仏のような生き物にメスを入れることがためられて、口から胃まで70cmのところ、65cmの腕を目いっぱい入れて、指先に触った棒らしきものをつかみ皆に引っ張ってもらいました。腕は、オオサンショウウオの歯で傷だらけになりましたが、出てきたのが棒だった時はほっとしました。それから、麻酔がさめるのに3時間、全部で5時間半もかかる大仕事でした。この仕事はとても大変だけど、ドラマチックであきないですね。



◆心温まるエピソードや病院での出来事を新聞のコラムに掲載されていますが、どんな思いで執筆されていますか?

動物以外にも関わりのあることなどを書いていきたいと思っています。

◆石山通り動物病院の経営の理念、将来の夢をお聞かせください。

現在、獣医8名、動物看護師8~9名のスタッフで本院と分院一つを経営していますが、ス

タッフの一人一人が歯車なのではなく全員で雰囲気を作っていて、一人一人かけがえのない存在です。もし、一人が長い間抜ける時は、そこに同じ形の歯車を入れるのではなく抜けた分だけ形をかえる、病院は生き物なんです。この病院は院長で成り立っているのではないので、昨年私は4ヶ月間留守にしたのですが、問題なく運営できる基盤があるんですよ。

◆酪農学園の思い出、在学中に得たものは?

放射線教室に所属していたのですが、当時、今は亡き中西宥教授から「皆が休んでいる時こそ、勉強せよ。日曜も正月も」ととても厳しく教えられました。でもその時厳しくされたからこそ、今も頑張ることができ、我慢ができ、次の事を考えていけるのだと思います。

◆酪農学園の在学、卒業生たちに向けてのメッセージを。

私は酪農学園大学が大好きです。建学の精神では、一流の大学だと誇りに思っています。だから皆さんにも誇りに思ってもらいたいです。

卒業生だから、大学が好きだからこそお願いしたいのは、これからもっと、学校・教員・学生の距離を縮めて、膝を突き合わせて話をするようなコミュニケーションができるよう努力していただきたいと学部へ希望します。

前号訂正

告田幸子さんの旧姓に誤りがありました。正しくは江口でした。おわびして訂正いたします。

同窓会だより

◆◆ 同窓会連合会の理事、評議員、幹事会 ◆◆

5月28日、札幌ガーデンパレスにおいて、2003年度の総会と学習交流会を開催致しました。高橋節郎同窓会連合会長のあいさつに続いて議案の審議に入り、議案第1号から5号議案までの案件として、事業と決算、予算関係を審議し3号議案の会則の一部改定等については原案通り承認されました。4号議案の役員改選では再選となりその他の事項として、学園70周年記念事業等とその他の質疑等が行われ原案通り承認をいただきました。

続いての交流懇談は忌憚のない交換会を行い予定通り終了致しました。



◆◆ 農業経済学科同窓会の現地研究会 ◆◆

1月18日、同学科における現地研究会が帯広市において、現地同窓生との交換交流と学習会として市川治教授による「資源循環の一環としての環境保全型酪農・農業の展開」についての講演と、現地会員との学習交流が行われました。



◆◆ 関東同窓会の拡大役員会 ◆◆

1月24日、関東同窓会の1都6県の支部長、事務局長、役員、連合会より木村が出席し平成15年

度の事業と、同窓会活動方針等について意見交換を行いました。



◆◆ 青森県支部同窓会 ◆◆

2月14日、同支部における総会と学習会の開催に、高橋会長と仙北富志和教授が出席致しました。来賓として出席の青森県畜産課丸井幸悦指導監と高橋会長より夫々あいさつをいただき、また仙北先生の「私の転職物語」の講演と講座後の交流が行われました。



◆◆ 酪農学科酪進会同窓会 ◆◆

酪農学科酪進会同窓会における定例会として、11月3日に研究会、03年2月8日にも院生と共に学習講座が行われ干場信司教授、森田茂助教授が出席し学習会が行われました。



◆◆ 獣医学科支部同窓会 ◆◆

2月7日、沖縄県那覇市において、沖縄支部同窓会の総会が開催され、及川伸助教授が出席し「産業動物獣医医療の今後の展開」についての学習会を行いました。

◆◆ 茨城県支部同窓会 ◆◆

3月30日、同支部の同窓会を開催致しました。時期的に春の開花とも重なり意見交換と共に、

親ばく交流の場として有意義な歓談の一日を過ごす事ができました。



◆◆ 旧短大酪農学校同窓会 ◆◆

10月26日、短期大学酪農学校当時の苫前分校で、58年から63年の受講生による同窓会が開催され、当時通信教育の先生として活躍の津田佳吾先生と苫前町花井忠昭農協長が出席し、当時の思い出を回顧し懐かしい学習交流会が行われました。



◆◆ 短期大学部同窓会総会 ◆◆

5月6日、新札幌アークシティホテルにおいて、代表委員、幹事による平成15年度の総会と学習会が安宅一夫短大長を来賓に

迎え開催致しました。総会では安宅学長のあいさつをいただいたあと、高橋会長を中心に学習交流会を行い有意義に終了致しました。

◆◆ 大学同窓会校友会同窓会 ◆◆

5月24日、野幌町「あおい」において各学科同窓会役員による通常総会と、平成15年度の議案の審議および役員の改選を行いました。また今年度の大学同窓会の活動として講座の実施と関連事項等の討議など、建設的な意見討議を行い有意義に終了致しました。

◆◆ 短大11期同窓会 ◆◆

4月12日、同11期卒による同窓会を長崎で開催致しましたが、卒業して40年の歳月を過ぎた仲間同士、野幌での懐かしい思い出を語らう交流会でした。

◆◆ 機農高校10期同窓会 ◆◆

5月18日、定山溪において同高校10期卒が50周年を迎えて、6回目の同窓会を行いました。恩師の半田裕先生をお迎えして、懐古の思いと近況を語らう交流会でありました。

◆◆ 酪農学園創立70周年記念事業に向けて ◆◆

創立70周年記念を迎え、同窓会として記念事業の実施と記念行事への参加

- 同窓会より小公園「噴水広場公園」の整備事業として 学園内の小公園を記念事業として完成させ、記念日に事業を披露し贈呈致します。
- 創立70周年記念礼拝に同窓会の出席について (於、黒澤記念講堂) 9月30日の記念礼拝には、従来のホームカミングデー礼拝の一環の行事として記念礼拝に同席し、学園の70周年をお祝い致します。
- 創立70周年記念祝賀会の開催について (於、ホテル札幌ガーデンパレス) 10月1日には学園主催の記念祝賀会が計画されております。

◆◆ 統一地方選挙で当選された方々 ◆◆

- 4月の統一地方選挙において本学同窓生の次の方々が当選されました。当選をお祝いすると共に今後のご活躍をご祈念致します。
- 町村長：留辺薬町長 南川健次郎 (大農経)、鳥屋町長 長屋一二 (大酪農)
 - 市町村会議員：恵庭市 東野義弘 (短酪農)、網走市 小田部善治 (大酪農)、江別市 春日基 (短酪農)、北広島市 橋本博 (短酪農)、芦別市 松井邦夫 (機農校)、平野貢 (機農校)、砂川市 黒澤一喜 (機農校)、幕別町 古川稔 (機農校)、別海町 水沼猛 (大酪農)、下川町 南邦彦 (大食流)、鶴居村 瀬川勝巳、洞爺村 佐々木良一 (機農校)、東藻琴村 厚海六郎 (機農校)、埼玉県横瀬町 浅見隆男 (大酪農)、石狩市 堀弘子 (三愛高)、深川市 東出治通 (大農経)、北本清美 (短酪農)、遠藤修 (機農校)、長野勉 (短酪農)
- なお、今回の選挙で当選されご紹介がもれた方がおられた場合は何とぞご容赦ください。

酪農育英会だより

1. 2002年度事業報告

◎奨学金貸与

大学生 35名 1,596万円
 高校生 8名 192万円
 計 43名 1,788万円

◎私費留学生奨学金給付

アジアからの私費留学生
 12名 720万円

◎研究奨励金

相原晴伴 大学講師 30万円
 日本酪農青年研究連盟 10万円

2. 2003年度事業計画

◎奨学金貸与(1名につき)

大学院生 2名(月額)5万円
 大学・短大生 32名(月額)4万円
 ※1999年度以前入学者

5名(月額)3万5千円
 高校生 8名(月額)2万円
 総額 47名 2,058万円

◎私費留学生奨学金給付

大学院生 2名(月額)5万円
 大学生 10名(月額)4万円
 総額 12名 600万円

◎研究奨励金 個人 30万円
 団体 10万円

3. 奨学金返還について

返還月の前月には返還明細書と返還払込書をお届けしています。

返還金は直ちに次の奨学金として運用されますので忘れずに返還、お振り込みください。

なお、住所変更、改姓、返還に関するご相談などは下記へご連絡ください。

財団法人酪農育英会
 TEL 011-386-1211

2003年3月31日発令

[退職・退任]

酪農学園大学
 (1)定年退職
 森本 仁(教授)
 湯浅 亮(教授)
 吉野 知男(教授)
 篠原 功(助教授)
 加藤 正勝(学生課長)
 天井 富士雄(主事)
 加藤 隆(主事)
 (2)依願退職
 西田 美知絵(主事)
 (3)嘱託退任
 音竹 満(教授)
 周 仲光(教授)
 山本 博信(教授)
 山下 昭芳(技師)
 酪農学園大学短期大学部
 (1)嘱託退任
 水野 直治(教授)
 室松 正雄(教授)
 とわの森三愛高等学校
 (1)定年退職
 深澤 秀則(教頭)
 三島 陽子(教頭)
 村山 昭二(教諭)
 (2)依願退職
 久保木 宣子(教諭)
 長松 孝明(教諭)
 (3)嘱託退任
 天谷 正通(教諭)
 千葉 昌子(教諭)
 山谷 繁男(教諭)

2003年4月1日発令

[新規採用]

酪農学園大学
 (1)新規採用
 酪農 澤本 卓治(講師)
 食品科学 上野 岳史(講師)
 食品流通 家串 哲生(講師)
 学事課 廣田 政則(主事)
 教務課 佐藤 雄平(主事補)
 教務課 仲野 恵子(主事補)
 学務課 吉田 陽平(主事補)
 学務課 田島 和宏(主事補)
 (2)嘱託新任
 酪農 許 應 哲(教授)
 食品科学 千葉 誠哉(教授)
 食品科学 中野 益男(教授)
 農場 加藤 正勝(主事)
 エクステンションセンター
 加藤 隆(主事)
 坂本 勲(技師)
 酪農学園大学短期大学部
 (1)新規採用
 酪農 岡本 吉弘(講師)
 (2)嘱託新任
 酪農 名久井 忠(教授)
 とわの森三愛高等学校
 (1)新規採用
 真田 昭好(教諭)
 竹中 志(教諭)
 隼野 謹(教諭)
 播磨 良信(教諭)
 前田 俊哉(教諭)
 時田 弥生(教諭)
 八木 啓太(教諭)
 学園事務局
 (1)新規採用
 総務課 中野 亮子(主事補)
 [昇格]
 酪農学園大学
 教授 谷山 弘行
 教授 矢吹 哲夫
 教授 山 鋪 直子

教授 横田 博
 助教授 翁長 武 紀
 助教授 萩原 克 郎
 助教授 村松 康 和
 講師 岩井 智 博
 講師 井上 紀 博
 学生部 学生課長 高 橋 秀一(学生部学生課主事)

人の動き

[人事異動]

酪農学園大学
 加藤 幸枝 学務部学務課(総務部総務課)
 森 美和子 入試部入試課(就職部就職課)
 加藤 康子 教務部教務課(就職部就職課)
 伊藤 明美 就職部就職課(総務部総務課)
 後藤 哲也 就職部就職課(高校事務室)
 廣岡 亨 図書館(学務部学務課)
 松田 直子 エクステンションセンター(教務部教務課)
 岡崎 良生 環境科学研究室(乳製品製造学研究室)
 とわの森三愛高等学校
 松田 浩治 高校事務室(学務部学務課)
 学園事務局
 袖野 道子 総務部総務課(財務部施設管理課)
 白川 康子 財務部施設管理課(図書館)

[役職]

とわの森三愛高等学校長 村山 昭二
 とわの森三愛高等学校教頭 阿部 忠夫
 とわの森三愛高等学校教頭 柴橋 伴夫
 酪農学園大学宗教授主任 高橋 圭一
 酪農学園大学短期大学部宗教授主任 高橋 一

2003年5月31日発令

[退職・退任]

酪農学園大学
 依願退職 平澤 佐智子(主事)

2003年7月1日発令

[新規採用]

酪農学園大学
 嘱託新任 獣医 酒見 蓉子(助手)
 獣医 都築 圭子(助手)

以上(2003.6.24)

酪農育英会は1人でも多くの学生への修学助成を目的とし、黒澤酉蔵先生が私財をもって設立され、また本会の趣旨に賛同して下さる方々のご寄附などで運営されています。

次の世代へ引き継いでいくためにも皆様のご協力をよろしくお願ひします。

スポットニュース

とわの森三愛高校の生徒が花壇造りに挑戦

JR大麻駅前、国道12号線沿いの花壇の植え込み作業が今年

も行われました。今年は、とわの森三愛高校の生徒が総合学習の一環として花壇造りを行うことになり、5月27日から植え込み作業が開始されました。

酪農経営科の生徒が育てた苗を普通科の1年生が植え、水やりなどの管理もしていく予定で、マリーゴールドやインパチェンス、サルビアなど10種類以上、約3,600株の花で彩られます。また、この植え込み作業には、酪農学園大学からも教育実習中の学生が数名参加し、指導にあたりました。

村山昭二校長は、「高が大が連携し、学園全体での活動にもなり非常に画期的である。三愛精神の“土を愛する”に則した、とわの森三愛高校ならではの総合学習となり、いちばんいい形になったのではないかと話し、微笑まげに作業をする生徒たちを見守っていました。



編集後記

今年、酪農学園は70周年を迎え、多くの卒業生を輩出し、それぞれの道を歩んだ今もお活躍されていることと思います。その中でも異質な輝きをみせている卒業生がいることをご存知でしょうか？彼らは2002年3月に本学を後にして、日本の音楽界に堂々たるデビューを果たしました。

「THE イナズマ戦隊」—農経卒の上中丈弥さん、山田武郎さん、酪農卒の中田俊哉さん、久保裕行さんの4人からなるロックバンドで、在学中から活動し、今年2月に「月に吠える」という曲でメジャーデビューしました。多方面にわたる卒業生の活躍が、学園の発展につながっていくのだと強く感じました。(O)

酪農学園だより

RAKUNO GAKUEN Vol.98
 発行：学校法人酪農学園 2003.7.15

酪農学園大学/大学院/酪農学園大学短期大学部
 とわの森三愛高等学校
 編集：学園広報室
 〒069-8501北海道江別市文京台緑町582
 TEL(011)388-4158 FAX(011)388-4157
 HPアドレス：http://www.rakuno.ac.jp/
 E-mail:koho@rakuno.ac.jp